リレー随筆　684

乳鉢

偉大な先輩と頼れる後輩，そしてお気楽な私

中津市医師会　　小　杉　雄二郎

このたび，秋本こどもクリニックの秋本竜矢先生より当リレー随筆を引き継ぎました，中津市立中津市民病院小児科の小杉雄二郎です。生まれは大野郡三重町（現在は豊後大野市三重町）で，高校までは三重町で過ごし，大分医科大学（現・大分大学医学部）を卒業後にそのまま母校の小児科に入局し，気がつけば25年が経とうとしています。若い頃に指導していただいた多くの先生方の，その当時の年齢をはるかに超える歳になりましたが，いまだに先輩方に何一つ追いつくことができていない気持ちで過ごしています。

私は2018年4月に当院に異動となり，丸5年が経とうとしているところです。当院には3床と少ないながらも新生児集中治療室（NICU）があります。私は新生児医療を専門にしておりますので，赴任する前や赴任直後は新生児を中心に診療をするつもりでした。一般小児診療については，当時上司で副院長だった是松聖悟先生がリードしてくださるだろう，と。しかしこの5年間，そのような目論見通りになるはずもなく，若干新生児医療が多めではありますが，気持ち的には半々くらいなところで経過しています。

ただ中津に来るまでの10年は，大分市医師会立アルメイダ病院小児科と大分県立病院新生児科を行ったり来たりしていたので，ほぼ新生児医療にしか携わっていませんでした。そのため，いろいろな疾患について学び直す必要がありました。だって，川崎病にインフリキシマブって？気管支喘息にそんなすぐにステロイド使うの？ってレベルでしたから・・・成書やガイドラインを読むなど自分で勉強をしながら，少し悩むところは一般小児診療の臨床経験を積んできた頼りになる後輩に教えてもらい，現在もなんとかやってます。

このような中で最近感じるのは，何かを新たに覚えることが難しくなってきたということです。以前からそのような話は聞いてきたことではありましたが，なぜか自分にはそんなことは起きないだろうと心のどこかで思っていたのでしょう。少し前にこれを実感した時には本当に愕然とし，かなり落ち込みました。DHAやEPAのサプリを試してみたり，青魚を食べてみたり，記憶力を改善すると謳われているビフィズス菌に手を出してみたり・・・ですが結局は，特に悪化も改善もないまま経過しています。ただ，元来お気楽な性格であり，また諦めもついたからか，偉大な先輩方も同じような気持ちになったことがきっとあるはず，頼もしい後輩もこれから先の人生で同じように思うことがあるはず，どうせみんなこうなるんだ，と考えるようになり，少し気が楽になってきました。

もちろん，まだ老け込むには早いと考えていますので，患者さんのために自分を鍛え，後輩には口うるさいおじさんだと思われる日々が続くでしょう。しかし，これから先の人生においては「亀の甲より年の功」，「老いては子に従え」という二律背反のように思える諺をバランス良く両立できるよう，良い意味で力を抜きつつ頑張っていこうと思っています。

最後に，このリレー随筆はここしばらく小児科医が続いてきましたので，バトンを同期の耳鼻科医である森山正臣先生（森山耳鼻咽喉科院長）に渡します。

駄文にお付き合いいただき，ありがとうございました。

リレー随筆　683

乳鉢

沈　　没

中津市医師会　　秋　本　竜　矢

2021年10月に中津市大貞に小児科を開業し，1年と少し経ちました。勤務医時代はまとまった休みには海外旅行に行っていましたが，ここ3年ほど飛行機にも乗れない生活が続いています。また，自由に世界中を旅できる日が来ることを祈って，過去の旅を思い出してみようと思います。

29歳で医学部に再入学するまでは，日雇い労働や工場労働でお金を貯め，バックパッカーとして，世界中を旅していました。一部の勤勉な者を除いて，長期旅行者はおおむね怠惰です。真面目に観光をするのは最初の数か月で，観光どころか移動さえも面倒くさくなってきます。ビザの期限があるので仕方なく移動するか，たまたま出会った旅人の移動にコバンザメのようについて行くことで何とか移動します。アジア横断の際は，日本を出て，とりあえずの目的地トルコのイスタンブールに到着したのは約8か月後でした（それでもかなり早いと褒められました…）。そこから，ヨーロッパへ行くか，アフリカへ下るかとなるわけですが，その前にワナがあります。それが沈没です。世界には長期滞在者が多い街がありますが，そこに必ずあるのが沈没宿と呼ばれる異常に居心地の良い宿です。疲れた旅人がその魔力に抗うことは困難です。当時，イスタンブールには2軒の日本人沈没宿があり，自分の滞在していた宿は1泊5ユーロ。キッチンやインターネット環境はもちろん，スラムダンクなどの漫画や日本からの短期旅行者が置いていく日本食材なども常備。宿泊メンバーが入れ替わっているうちはいいのですが，固定メンバーが増えていくと徐々に堕落していきます。そこでの1日は…昼頃に起床。共有スペースで漫画を読みながら，他の人の目覚めを待つ。人が集まってくるとシェア飯と言われる夕食のメニューを決定。10人前後が参加し，買い出しと調理，みんなで夕食，その後は夜更けまで酒を飲んで寝るという，「海外にいる意味ねえ」の日々が始まります（女性の旅人が多い宿だったので沈没宿としてはかなり健全です）。このままではダメだとみんな分かっているので，1日1回は何かをする（例：観光，手紙を出す，ビザの申請）ようにしています。しかし，徐々に酒を買いにスーパーに行ってきたからOKとか，窓を開けてイスタンブールの空気を吸ったからノルマ達成など自分を甘やかし始めます。自分は2か月ほどで抜け出し，なんとか南に向かいました。その先のエジプトカイロにさらに恐ろしい沈没宿が待っていることも知らずに……。

ということで，コロナが収束し，自由に世界を行き来できる日が戻ってくることを，心から願っています。

リレー随筆　682

乳鉢

変わるもの・変わらないもの

大分市医師会　石　和　　翔

大分こども病院院長：久我修二先生よりバトンを引き継ぎました，石和翔と申します。この場をお借りしてご指名いただきましたことに感謝申しあげます。

私は2008年に大分医科大学（現大分大学）を卒業後，関西（神戸）を経て主に東京にて約15年間，新生児科医・小児科医として従事して参りました。東京では主に日本赤十字社医療センター：本社を経て，国立成育医療研究センター，東京女子医科大学：腎臓小児科（主に小児の臓器移植医療）などで勤務いたしました。2021年4月に大分に帰郷し，1年間の大分大学医学部附属病院：小児科勤務を経て，2022年4月より石和こどもクリニック：副院長として日々診療に取り組んでおります。そんな自身の趣味の話をさせてください。

晴れて医師となり，家と職場の往復のみで毎日があっという間に過ぎ去る，絶賛下積み生活を送っていた研修医時代です。一人で気軽に楽しめる趣味はないだろうかと模索しておりました。そんな折に，一眼レフ片手に神戸の街並みを一人で撮影している中高年の男性を見かけました。わざわざあんな重たいもので撮らなくても，と思いつつも，鳴り響くシャッター音に惹かれたのを覚えております。後日，悩みに悩み，当時の自身にとってはとても背伸びする形でNIKON D90を購入いたしました。以来，一人でふらっと出かけては，様々なものを撮影しました。特に力を入れた被写体は，競馬場を颯爽と駆け抜ける競走馬でした。ただでさえ重たいカメラボディに特大の望遠レンズを装着し，機関銃とも言える一眼レフを携え競馬場に赴いたものです。

今ではもっぱら被写体は家族となり，旅先や日常のふとした瞬間をこれでもかと切り取っております。競走馬を相手にしていた自身にとっては，運動会で走る息子を一切のブレなく捕捉することなど容易く（カメラの性能のおかげですが），縦横無尽に動く赤子の撮影もお手の物で，息子が生まれて数年間は無我夢中に撮影しました（毎日のように撮影しておりましたので，今見返すとどれも同じような写真なのですが）。一眼レフの魅力は，①誰も傷付けない，人を笑顔にすることができる魔法の道具であり，②趣味にはお金がかかりがちですが，ある程度は妻の「理解」と「了解」を得ることができるところだと思っております。

初めて手に取ってから約15年，現在はNIKON D500を愛用しております。振り返ると，この15年で医療業界も大きく変わりました。紙カルテは電子カルテに，電話予約はWEB予約に，

コロナ禍での非接触対応が後押しする形でオンライン診療やクレジットカード決済の導入なども，現在進行形で進んでおります。より便利に，より快適に，業務効率化とコスト削減のペーパーレス化は今後も進んでいくのでしょう。いつの日か紙幣・貨幣もなくなり，給与もデジタル円で支給される日が来るのでしょうか。そんな中，妻には事あるごとに「そんな重くて大きなカメラを持って,,,」と言われますし，時代に逆行するような一眼レフですが，この先も手放すことはないでしょう。医療DXが進む中にもきっと同じように代え難いものがあり，それらは日々の何気ない対面診療の中にある，例えば人との触れ合いから生まれる「温もり」や「気付き」であるような気もする今日この頃です。

リレー随筆　681

乳鉢

「いつでも・気軽に・ひとまず紹介」できる病院を目指して

大分市医師会　久　我　修　二

2022年4月1日付けで大分こども病院の院長を拝命した久我修二と申します。
大分大学小児科の末延聡一先生よりリレー随筆のバトンを頂戴しました。
ここに謹んでご挨拶を申し上げます。

2022年11月現在，新型コロナ第8波が現実的となってきました。
ご存知の通り，第6波と第7波は子どもが感染者の30％を占めることになりました。2022年7月，職員/家族の新型コロナ感染による欠勤と時間外患者数の急増から職員の疲弊が積み重なり，日常診療に大きな支障が生じてきました。そのため7月26日から「**平日日中の外来を休診**」という苦渋の決断をしました。大変ご迷惑をおかけしました。しかし小児科医会の先生方のご理解とご協力のおかげで大きな混乱なく県民の皆様にも受け入れていただきました。

コロナ禍を通して，当院の使命と役割を再確認することができました。すべての診療を継続することができないとき，何を休止して何を継続するのか？当院の存在意義を職員と協議できたことは貴重な体験でした。協議の結果，「**当院の存在意義は，子どもの時間外診療の提供である**」と結論に至りました。
このことを職員だけでなく，他の医療機関や一般市民の方とも共有できたことは，大変意味のあるプロセスになったと思います。

また当院には理事長の藤本が掲げる「**安心・満足・感動**」というモットーがあります。
子どもの時間外受診のうち90％以上は軽症です。「コンビニ受診」という言葉も取り上げられ，「適正受診を心がけましょう」と呼びかけが続いています。多くの親が受診する動機には「**不安**」があります。「朝まで待って大丈夫だろうか？」「こんなに高熱で脳に影響はないだろうか？」「コロナだったらどうしよう？」など，湧き上がる不安に対して，親世代はスマホで情報収集します。しかし不安はむしろ増幅されます（笑）。
当院の役割は「**不安→安心**」にかえることが役割だと認識しています。不安な親にむかって「**適正受診をすべきだ**」と正論で対応するのは，あまりにしんどい世の中ではないかと思います。時間外に受診したい方の窓口になること，軽症は当院で完遂できること，重症は高次医療機関に紹介できること，この点は，当院が中心的な役割を果たすことができることだと思います。すこし

欲張ると，不安を安心に変えて，さらに満足してもらえたらいいな，（ごく稀だけど）受診したことに感動してくれる方がいるといいな，と考えています。

医師会の先生方には，「**いつでも・気軽に・ひとまず紹介**」できる病院を目指していきます。

当院では高次医療は提供できる体制がありません。必要に応じて大分大学や大分県立病院と連携して転院・紹介させていただいております。初診時から高次医療が必要なことが一目瞭然であれば紹介先を迷うことはないと思います。病態がわからないが入院や精査が必要な場合の方が多いのではないでしょうか？そのような場合は「**いつでも・気軽に・ひとまず紹介**」していただければと思います。

今後も先生方からのご指導とご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

リレー随筆　680

乳鉢

with コロナのスポーツ観戦

大分大学医学部医師会　　末　延　聡　一

先ずは，当リレー随筆をご紹介下さった，古城小児科医院　古城昌展院長に深謝申し上げます。古城先生が大分大学ご勤務中は気管支喘息の治療の基本，小児心疾患の診断の困難さ，さらに私が現在専門としている小児血液・腫瘍性疾患の診療を拝見し，ご一緒に働いた日々を宝として現在も大分大学医学部附属病院で働いております。

さて表題の話。

私は大分大学医学部の準硬式野球部出身で，今は同部の顧問を拝命しており，学生たちの活躍を応援する立場となりました。

まだ自身も現役と思っているのですが，九州医学会小児科分科会関連行事で恒例の大学対抗野球大会も休止となり，実力を試す機会が無くなって既に三年が経過しました。

そこで楽しみと言えば，自宅でも可能なスポーツ観戦です。私はコロナ前からスポーツ観戦は密かな趣味の一つであり，ふらりと高校野球の県予選を見に行ったりしていました。NHKの国体やインターハイの陸上観戦も大好きでした。新型コロナウイルスは多くの社会活動を奪い，スポーツも多分に漏れず「Hold」の時期が長く続きましたが，徐々にwith コロナの社会生活は回復傾向にあり，メディアでスポーツを視聴する機会も増えてきました。悦ばしい事です。

TVなどのメディアでスポーツを観戦するにあたり，with コロナの時期に経時的に気づいたことが三つあります。個人的な意見です，ご容赦ください。

1）無観客の試合は寂しいけれど，新たな発見もあった。

野球の試合での打球音や投球の際の指をはじく音，サッカー（Football）のボールを蹴る音がダイレクトに聞こえ，新鮮でした。特に木製バットの打球音は気持ちが良いですね。

2）有観客の「声出し無し応援」の時期は，それなりに良いことがあった。

拍手の音，良いですね。ピッチャーが投げる際の「声」が無観客時に比べて良く響き，「気合が入っているな」とこちらも見ていて手に汗握りました。

3）「鳴り物応援」は，自分は苦手であることが判明した。

これ，個人差が大きいと思います，以前それほど感じなかったのですが，メディアでの観戦でも「鳴り物」が苦手です…。もしかしたら歳のせい？甲子園のブラスバンドがセーフなのは何故だろう…？たぶん私が協調性の無いところが要因なのかもしれません。良く言うと，ダイバーシティ。使い勝手の良い言葉があって良かったです。

プロスポーツの世界では「income」が無いと成り立たないのが大前提なので，観客収入は非常に重要と思います。贔屓のチームの応援。盛り上がりますよね。来年は，いろんなスポーツ観戦に行きたいです。鳴り物応援を強要されないよう，グレードアップ席を予約しようかな…。

おそらく古城先生は，心にネクタイを締めて文章をお書きになったと予想します，今回ノーネクタイで自由に筆を進めて失礼しました。

次のリレー随筆は，元ラグビー部で最近メディアへの露出が多い，旬な久我修二先生（大分こども病院院長）にお願いしました。

リレー随筆　679

乳鉢

COVID－19

別府市医師会　　古　城　昌　展

前号の随筆を書かれた廣田潤先生には，いつもアドバイスを賜りまして，勇気づけられています。ありがとうございます。

さて，当院では2021年8月に，初めてCOVID-19陽性者を診断・診療しました。

以後，2022年8月までの年齢別陽性者数，陽性者および検査数合計を表に示します。年齢は，1か月～ 89歳でした。

また，2022年4月～ 8月の陽性者におけるワクチン接種後の感染状況は，下記のようになりました。

5～11歳陽性114人中，小児用ワクチン接種2回後陽性19人（6日～4か月後），ワクチン1回後陽性5人（9日～ 3か月後）。

12歳以上陽性186人中，ワクチン4回後陽性0人，ワクチン3回後陽性35人（0日～ 8か月後），ワクチン2回後陽性55人（21日～ 12か月後），ワクチン1回後陽性2人（2 ～ 7か月後）。

検査は，院内では抗原定性検査キットを使用し，また，東部保健所，別府市医師会地域保健センターに，PCRを依頼，施行していただきました。

さらに，別府医療センター，大分県厚生連鶴見病院の先生方には，重症患者様のご高診を賜りました。

あらためまして，この場をお借りして御礼申し上げます。

	2021年					2022年							
年齢	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
＜1	1								1	1		2	4
1							1		1	1		2	3
2									2		1	2	5
3										1		3	6
4									3	3		3	7
5							1	1	1	3	1	7	3
6									1	3		3	9
7						1			1	4	1	2	4
8									1	5		1	11
9									3	4	1	7	3
10									2	3		6	9
11									4	3	1	1	8
12										2	1	7	9
13						1	2						6
14								2		2		4	4
15										2			4
16								1	2			1	1
17									2	1	1	2	2
18												5	2
19										1			2
20 ～ 29									3			1	6
30 ～ 39							1		5	1		6	10
40 ～ 49									3	4	1	9	16
50 ～ 89								1	1			1	6
陽性合計	1	0	0	0	0	2	5	5	36	42	8	75	140
検査合計	11	23	5	6	0	48	51	24	136	112	40	195	236

リレー随筆　678

乳鉢

母川回帰

別府市医師会　廣田　潤

サケが産まれた川に嗅覚や磁力，微弱電流などを頼りに五感を使って戻ってくることはご存知のことと思います。日本の研究で，同じ湾に注ぐ二本の河川で片方の川で産まれたサケの稚魚をもう一方の川に放流してどちらの川に戻ってくるかを調べたものがあります。結果は，育った方の川に全て戻って来たそうで，「生みの親より育ての親」を忘れなかったというとても律儀な行動に感心いたします。

私は東京の町田という旧神奈川県であった場所で生まれ育ち，1980年に当時の大分医大へ3期生として入学しました。先輩が200名しかいない新設医大でしたが，そこで身につけた人生観や医学への思いはその後の私の生き方に大きな影響を与えてくれました。初めて搭乗するYS-11，うららかな春の海沿いをバスに揺られて都町の宿にたどりついたこと。大分には親の知人が僅かに一人のみいて，それを頼りに数十戸ほどの古野へ下宿を決め，そこから医師としての私の人生が始まりました。その頃，巷でかかっていた音楽は山下達郎のRIDE ON TIMEとYMOのTECHNOPOLISでした。臨床実習では心臓血管外科を中心に外科学への興味を強く覚え，母校の指導教官から「最先端のところで学ぶチャンスがあれば行ってきなさい。そして辛くなったらいつでも戻っておいで。」と，都町のラウンジで呑みながらそっと背中を押していただきました。その後，当時心臓血管外科学のメッカであった東京女子医大循環器外科へ入局し，45歳頃には関連病院のチーフとして手術に携わっていました。緊急性が多い手術の連続，手のかかる術後管理，新しい手術の導入に明け暮れるわけですが，病院運営や待遇など，女子医大から外様として投入されたチームのため基本的にどこもアウエーの環境で随分鍛えられました。しかたないので，学生時代に指導教官から教わった，「挨拶をきちんとできるドクターになりなさい。」を続けていくと，暖かくサポートしてくれる運営陣に気付くことができました。しかし，女子医大入局時の主任教授から「生物的人生と職業人生の折り返し地点を常に意識しなさい。それぞれ残りの人生を逆算して生き様を決めるように。」との薫陶が常に頭にありました。そこで，残りの人生を母校の医療環境に役立てたいと意を決し，2012年の春に快く受け入れてくれた大分大学心臓血管外科へ戻りました。私にとっての母川回帰です。そして現在，地域に密着した医療に携わりたいとの希望を石垣病院で叶えさせていただき，サケが産まれた川に戻ってきた心地良さを味わっています。気が付けば，大分に戻ってから学生時代にワンゲルで登っていた山を30年ぶりに再開し，よく聴く音楽はやっぱり山下達郎と，改めて回帰現象に苦笑です。

今回バトンをいただいた松川秀先生は優しく頼りになって力強い人物，外科学の正当な継承者です。時に「雨ニモ負ケズ，風ニモ負ケズ」で一緒に海へ釣行し，豊かな時間をいただいています。そして次は大学の同期生で，現在公私にわたり精神的なサポートをいただいている古城昌展先生へバトンをお渡ししたいと思います。

リレー随筆　677

乳鉢

多芸多趣味

別府市医師会　松　川　　秀

別府の顕秀会石垣病院で院長をしております。私は，岡山生まれの岡山育ちで，小さい頃から絵を描くのが好きで，主に人の顔ばかりを描いていました。また，母からヴァイオリンとピアノを習っていましたが，弾けるようになる前に挫折しています。さらに家族の影響でテニスをしていましたが，中学になる頃にはサッカーに転向しました。サッカーはあまりにもキツすぎて嫌いになってしまい，あのままテニスを続けていれば，今頃はテニスがもっとうまくなっていただろうにと後悔しています。やはり絵を描くのが好きでしたので，将来的には画家になろうと思っていたのですが，元消化器外科医の父の影響もあり，とりあえず医師になってからでも絵を描くことはできると考えるようになりました。佐賀医大を卒業後，東京の三井記念病院へ就職し，外科の研修を受けましたが，月の3分の2は病院へ寝泊まりでマンションに帰っても滞在時間5時間という生活がずっと続きました。研修が終わると，次は呼吸器外科スペシャルレジデントとなり，さらに多忙な日々が続き，疲労困憊の果てに2005年より妻の実家のある別府へ引っ越し，アルメイダ病院外科へ就職しました。ここで白鳥敏夫先生に出会い，消化器外科を一から教わり，一人前にしていただきました。テニスや釣りをすることは時々叶いましたが，2012年に別府の石垣病院へ移るまで，趣味はほぼ手術だけになっていました。数年経過し，休みの日は割と自由に過ごせるようになってからは徐々にテニスをする機会が増え，肌の色が健康的になりました。娘達に勉強を教えるのも趣味となり，娘達と遊ぶことも趣味となり，3年前からは釣りをする機会も増えました。主に堤防や陸続きの筏からクロやチヌ，カサゴやメバルを釣って家に持ち帰り，それらを捌いて料理にして，家族から「おいしい」と言ってもらうところまでやり遂げて満足しています。もともと船酔いがひどいので船釣りをすることはないだろうと思っていましたが，テニス友達がボートに乗せてくれました。どうなることかと思っていましたが，しっかり酔い止めを飲んでいたおかげで案外大丈夫でした。そして50cm級のヒラメが釣れてしまったばかりに，ボートでの釣りにハマりました。カサゴやメバル，キスなど釣れた魚はどれも陸っぱりから釣れる魚よりも大きく，いつも大満足です。というわけで，今度は船舶免許を取得したい，いつかは自分の船を持ちたいと考えるようになり，すっかり船釣りの魅力にとりつかれています。今はたまに絵を描いたり，手術をしたり，テニスをしたり，釣りをしたり，とにかく人の一生には限りがありますので，身も心も健康が保てて身体が動ける間は何事も全力で突っ走ろうという気持ちで毎日を過ごしています。

リレー随筆　676

乳鉢

週一回の「非日常」について

大分郡市医師会　　阿　南　重　郎

実家の診療所で勤務するようになり，この夏で9年になります。

普段私は主に一般内科医として患者さんの診療を行っていますが，元々の専門が消化器内科のため，毎週木曜日に前勤務先である大分市医師会立アルメイダ病院で，内視鏡検査をお手伝いしています。診療所でも内視鏡検査を行っていたのですが，異動当時の消化器内科部長のご厚意もあり，「スキル向上」というよりは「スキル低下予防」という意味合いで，週一回の内視鏡医として勤務を続けています。当然開業医の先生方などの紹介が多いため，ご迷惑にならない範囲で検査などを行っています。

普段の診療所では上下ともに白衣ですが，木曜日だけは上下ともに検査用の黒のスクラブを着用して，自分の中でもメリハリをつけて臨んでいます。最新の内視鏡機器に触れることができ，また私よりもかなり年下の常勤医や初期研修医の先生，時期によっては病院実習中の医学部生とも接する機会があり，いわゆるgeneration gapにうろたえることがかなりありますが，それも含めて非常に刺激がもらえる場となっており，そのためか翌日の金曜日の朝は何となくいつも頭がスッキリしている，気がします。

ただこれも両親が診療をしているが故にできることで，いつまでもこの週一回の「非日常」を続けることはできないと思っています。そもそも9年もしていれば，非日常とはいえないでしょうが。

ちょうどその9年前に本誌の「勤務医リレー日誌」を書きました。当時の拙い文章を読み返してみると，大変恥ずかしくもありますが，その後の医師人生への大きな期待感を持っていた自分を思い出します。実際この数年は新型コロナウイルス感染症に翻弄される毎日で，ホンネを言えば想像していたものとは全く違った状況で，「日常」そのものが変わってしまった感もありますが，その時その時を大切にこれからも日々精進していきたいと思います。

最後に現部長の福地聡士先生はじめ，アルメイダ病院消化器内科の先生方，内視鏡室のスタッフ・関係者の皆様，いつも優しく接してくださり大変ありがとうございます。いつまで続けるかわかりませんが，今後ともよろしくお願いします。

次回は，アルメイダ病院で大変お世話になりました松川秀先生にお願いしています。

リレー随筆　675

乳鉢

町医者として再スタート

大分郡市医師会　　梶　本　展　明

大分郡市医師会の梶本展明と申します。大分大学の医局に同期入局した石田健朗先生より指名頂き，執筆することとなりました。簡単ではありますが，自己紹介をさせて頂きます。大分県大分市生まれ。小学校，中学校，高校ではバスケットボールに熱中し，テレビでのNBA観戦（マイケルジョーダンに夢中でした。），その後は友人と夕方までバスケットボールに明け暮れるという日々を過ごしていました。父が開業医であり，背中を見て育ち，金沢医科大学に入学。卒業後，福岡大学病院で2年間研修し，その後大分大学附属病院・消化器内科学講座に入局しました。地域の関連病院で働き，多くの患者さんと接し，さまざまな疾患を経験し，医師として成長させて頂きました。10年間近く，生粋の消化器内科医として働き，ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術），ERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査）などの内視鏡治療に没頭する日々が続きました。

しかし，やりがいのある内視鏡治療の日々に後ろ髪を引かれつつも，一代目の父が76歳となり，昨年より実家の医院に勤務することとなりました。内視鏡治療漬けの日々は終わりましたが，1つの夢であった父と一緒に働くことを実現でき，喜びを感じております。一変した仕事内容に戸惑いを感じつつも，患者さんとの何気ない会話，総合内科医として全身の診察から鑑別疾患を考える医療に充実した日々を過ごしております。また老健施設の入居者さんの診療にも携わっているのですが，まだまだコロナ禍の影響で入居者さんとご家族の面会が，満足に叶えることができず，憤りを感じている毎日です。特に入居者の方がお亡くなりになられた際は，尚更です。以前のように家族みんなが普通に面会することができ，外出も自由にできる環境になっていくことを強く望むばかりです。

またロシアのウクライナ侵攻による悲惨な状況は眼を背けたくなるような現実であり，一刻も早く平和が訪れることを望みます。人間というものは思想の相違により，ここまで人命を軽視することができるようになれるものなのかと，やるせなさを感じます。何はともあれ，自分にできることは眼の前にいる患者さんの命を大切にすることであり，それに精進していきたいと思っております。医師会の諸先生方の御指導を頂きますよう宜しくお願い致します。次回は大学の医局の先輩であります，大南クリニックの阿南重郎先生にお願い申し上げ，快く引き受けて頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

リレー随筆　674

乳鉢

～痛風発作　お酒は飲まないけど～

宇佐市医師会　　石　田　健　朗

皆さんこんにちは，宇佐市の宇佐メディカルクリニック 石田 健朗（いしだ としろう）と申します。

令和3年4月に地元の宇佐市で開業し，日々診察・内視鏡検査・ワクチン接種・施設訪問などを行っています。

もともと健康診断で尿酸高値は指摘されていました（8mg/dl台）→どうもないため放置。

ところが，5月のある日の夕食にファストフードを食べ，床に入る前に右足の親指の付け根（正確には第1中足趾節関節と言います）に何となく違和感がありましたが…そのまま眠りました。

翌日の朝，打撲の既往もないのに同部位は赤く腫れ上がり，激痛のため靴を履くのもままならず，サンダルで通勤しました。

整形外科を受診したところやはり骨折ではなく，うすうすわかっていましたが痛風発作の診断が下されることになりました。

風が吹いても痛いといいますが，風が吹かなくてもめちゃくちゃ痛いです。

いろいろな本やサイトでは発作は1～2週間で軽快と書いていましたが，4週間ほど苦しみました…。

痛みが治まってからは生活習慣改善（食事内容の見直しと週に2日，1時間ほど有酸素運動→体重を10kgほど落としました）を3か月行ったものの尿酸値はなかなか下がりません。そのため8月から尿酸生成抑制薬の内服を開始することにしました。

内服を開始して約半年が経過し，尿酸値は5.9mg/dlまで下がりました。

薬は1年の内服で止めたいと考えていますが，体質の問題もあるとしたら止めたらまた上がるのでは??と戦々恐々としています。

以上が簡単ですが小生の現病歴になります。

外来に来る痛風発作の患者さんに強い共感ができるようになりました。

皆さんも，尿酸値はいかがでしょうか??

リレー随筆　673

乳鉢

豊後高田市医師会　　和　田　康　宏

大分県医師会会員の先生の皆様，はじめまして。豊後高田市医師会会員の和田康宏と申します。大学の医局の先輩である織部消化器科の織部淳哉先生よりご指名いただきました。昨年4月に医師会会員となったばかりの新参者ですが，どうぞよろしくお願いいたします。

これまで私は大分大学消化器内科学講座の医局員として大学病院と大分中村病院に勤務してきました。4年間の大学院生活を経て，昨年4月に高田中央病院に勤務することになり，この1年間豊後高田市の高齢者医療に従事して参りました。理事長の瀧上茂先生や院長の阿部航先生，また同じ医療法人である宇佐胃腸内科医院の中野眼一先生には特に気にかけていただき，本当に感謝しております。

臨床業務の傍ら，大学院生のころから村上和成教授や兒玉雅明教授のご指導のもと，大分大学消化器内科学講座で研究を続けています。大学院生活の4年間のうち途中の2年間は滋賀医科大学の病理学講座に出向し，九嶋亮治教授や向所賢一教授にもご指導いただきながら，Helicobacter pylori菌の除菌による胃粘膜の免疫組織学的変化について研究しました。除菌により不完全型腸上皮化生・幽門腺化生・偽幽門腺化生が減少することを示すことができました。これらの化生の減少が除菌後に胃癌の発生頻度が減少する一助となっていると考えています。もう一つ研究課題を与えられ，JCHO滋賀病院の中島滋美先生のご指導のもと，欧米に多いと言われている自己免疫性胃炎の免疫組織学的検討と臨床所見との対比に関する研究を行ってきました。これまで日本人では自己免疫性胃炎は稀であると言われてきましたが，実際はそれなりの頻度で見つかることがわかってきており，今後のスクリーニング方法の確立が望まれるところです。

私の趣味の話をしようと思いましたが，ここに書けるような趣味は持っていません。中学・高校生の時は帰宅部でした。大学生の時は弓道部に入部しましたが，引退と共にやめてしまいました。ドライブは好きですが，車種へのこだわりはなく，気ままに運転するだけですので，やはり書くまでもありません。水泳やジム通いをしたことはありましたが，コロナを言い訳にしてやめてしまいました。寝ることが楽しみですが，日ごろの業務に追われて満足に眠れておりません。唯一貫徹している趣味と言えば食べることでしょうか。昨年末にコロナの流行が落ち着いていた時期には瀧上先生や阿部先生に豊後高田市内のいろいろな店に連れて行っていただきました。最近の楽しい思い出と言えばこれに尽きると思います。

このたび4月からは中津の実家である和田胃腸科内科クリニックに勤務することになりました。院長を務める父親ももう少し頑張ると言っております。父子とも先生方にお世話になりますが，今後ともご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

次回は大学の医局の先輩であります，宇佐メディカルクリニックの石田健朗先生にお願いしました。